離島実習事後レポート

今回の実習を通して、私は離島医療の難しさを改めて痛感するとともに離島医療の素晴らしさも体感することができました。

まずは難しさについてですが、離島での診断や治療法選択の難しさというものが私の心には残っています。実習で外来の見学をしていた時にアキレスけん断裂の疑いのある患者さんが来院したときに内村先生は患者さんの話を聞いて、右足を軽く固定した後に安静にして痛みが続くようなら本土に紹介状を書くと患者さんに伝えていました。本来ならすぐにギブスで幹部を固定して本土へ紹介するのがセオリーなのではないかと思いましたが、先生が「固定してしまうと島では生活をすることが本土の何倍も大変になってくるし患者さんも高齢なことから、生活が送れるのであれば無理に治療は進めない」とおっしゃっているのを聞き、治すことに全力を注ぐだけではなく、患者さんの生活や予後を見ていくことも地域医療においては大切になってくると感じました。

素晴らしさについてですが、往診などで様々な地区を回りながら診察をしていく中で、先生と患者さんの距離を近く感じました。先生と患者さんが会話していく中で先生が些細な生活の変化、例えばお酒の瓶の数が少なくなっていることや口数がいつもよりも少ないことなどに気づくことで疾患の早期発見や予防に役立っていると思いました。また患者さんとのコミュニケーションも取りやすくなるため患者と医療従事者としてお互いを信頼しあうとても良い関係が気づけていて、とても驚きました。

今回の離島実習の中で今まで自分の中にあった将来目指していきたい医師像の完成形を見られたような気がします。この気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思います。

往診の　道すがら見し　ナポレオン

往診の途中で立ち寄ったしんきろうの丘に書いてある俳句を文字って詠みました。しんきろうの丘をこれまで多くの先生方が通りながら往診に向かったという話を聞いて、下甑島の医療は多くの医療従事者に支えられてきたということを実感するとともに自分ももっと頑張ろうという決意をここで抱きました。往診の日は土砂降りで、丘からしんきろうは見えませんでしたが、ナポレオン岩は見ることができました。

離島実習　感想レポート

今回、9 月 5 日から 8 日までの 4 日間、下甑島の手打診療所で実習をさせていただきました。

初日は上甑組と共に川内港から高速船に乗り込み、そこから 1 時間半かけて下甑島の長浜港に到着しました。手打診療所で外来の見学をさせていただきました。その際に、患者一人一人に対して、じっくり向き合っているように感じ非常に印象的でした。また、昨年に引き続き思ったことなのですが、手術室、血液透析室、生化学分析装置、大腸カメラ等の設備が整っていることに驚きを感じました。外来見学に加え、グループホーム訪問もさせていただき、その施設の方々とコミュニケーションをとることができました。

2 日目は、初日と同様に外来見学をしました。また、この日は透析の日でもあったので、その様子も見学しました。その際、透析室があるのは甑島では手打診療所だけだという話を聞き、透析室の存在も手打診療所が必要とされている要因の 1 つであるように感じました。この日の夜、内村先生、研修医の先生 3 人とご飯を食べに行きました。地元のおいしいご飯を食べながら、先生の甑島における医療の現状や先生の医師としての心構えなどを聞くことができ非常に良い時間を過ごすことができました。

3 日目は出張診療の日で、瀬々野浦診療所と片野浦出張診療所、また、その 2 つの地区の往診の見学をさせていただきました。往診の見学の際に、暑い部屋だったら「こんな暑い部屋だと熱中症になるよ」などといった声かけをしているのを見て、実際に患者の生活まで見ることができ、生活の変化から異変を察知できたりする点において、在宅医療の良さを実感することができました。また、患者さんのバイタルを測定させていただきました。電動の血圧計だけでなく水銀血圧計を使った血圧測定の練習もさせていただき非常に良い経験となりました。

4 日目は午前中のみでしたが外来を見学しました。外来の前に、毎朝 8 時半からカンファレンスが行われており、そこで患者の状態や今日すべきことなどを皆で共有しており、スタッフの意思疎通の重要性を認識しました。

今回の実習を通して、様々なことに気づき、学ぶことができました。今回学んだことを忘れず、今後も医学の勉強に励んでいき、自分の目指している医師像にむかって精進していきたいと思います。

俳句について

　　下甑　　不可能という　文字はなし

この句を詠んだ理由

　今回、実習で下甑島に行ったが、離島だからといって、限界があるわけでなく、本土と連携をとったりすることで医療の幅は広がるのではないかと感じました。なので、下甑島の観光名所であるナポレオン岩のナポレオンの名言「余の辞書に不可能という文字はない」とかけてこの俳句を作成しました。